

東臼杵北部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年9月 東臼杵農林振興局
(東臼杵北部農業改良普及センター)

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
 - 1 第13回全国和牛能力共進会 宮崎県出品対策共進会の開催
 - 2 MIYAZAKI-GAP審査に向けての支援
- II 主な普及指導活動等の取組
 - 1 地域プランに基づく普及活動 (P 2～3)
 - 1 【施策1】 稲作研究会現地検討会が開催
 - 2 【施策1】 たまねぎ苗床巡回
 - 3 【施策2】 新規就農者に対する個別支援
 - 4 【施策2】 経営改善コンサルタントの実施
 - 5 【施策2】 労務管理研修～マッチングアプリ活用実証に向けた説明会～
 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P 4)
 - 1 令和8年度宮崎県茶共進会・求評会の開催

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 第13回全国和牛能力共進会 宮崎県出品対策共進会の開催

26日、都城地域家畜市場において、標記共進会（プレ全共）が開催されました。延岡市からは、第1区（繁殖雌牛群）に3頭、第4区（若雌の2）に1頭が出品されました。

このうち、第4区では、優等賞5席に入賞することができました。出品農家の日頃の飼養管理と努力が、大舞台での堂々とした立ち姿として結実しました。

本大会を通じて、出品農家の意欲がさらに高まるとともに、地域全体の改良意欲の醸成につながりました。今後も、来年開催の全国和牛能力共進会に向け、関係機関一丸となって支援していきます。



種牛の部に挑む生産者

2 MIYAZAKI-GAP審査に向けての支援

24日、10月中旬に管内で初めてMIYAZAKI-GAP認証のための審査を受ける予定の生産者（水稻）に対して、普及センターから審査に向けた支援を行いました。MIYAZAKI-GAPとは、宮崎県独自のGAPで、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理の5分野を含む内容になっています。

今回、生産者がMIYAZAKI-GAPの基準書（穀物）に沿って行う自己点検方法や点検結果について、助言を行いました。また農薬等の保管庫や農産物取扱施設としての精米所の現地確認を行い、基準書の内容に適合しているか確認しました。

生産者もGAP認証に対して意欲的であり、普及センターとして、今後も引き続き支援を継続します。



MIYAZAKI-GAP認証マーク

II 主な普及指導活動等の取組

1 地域プランに基づく普及活動

1 【施策1】 稲作研究会現地検討会が開催

10日、稲作研究会会員と関係機関を対象に現地検討会を開催し、19人が参加しました。

現地の定点調査ほや展示ほの巡回に先立ち、普及センターから生育概況について説明しました。

検討会は、「ヒノヒカリ」、「ひなた舞」の定点ほ場、奨励品種を決定するための品種比較ほ場及び主食用米と飼料用米の乾田直播栽培ほ場において行い、状況確認と意見交換会を行いました。

新品種である「ひなた舞」は、「ヒノヒカリ」より穂が長く、いもち病などの病気にも強く、良好な生育であることを確認しました。

また、省力化が期待される乾田直播栽培は、今年取り組んでいる2戸の生産者から主食用米、飼料用米における栽培管理のポイントや成功・失敗を分けた点などの説明があり、参加した生産者からは「専用の播種機を用いた試験栽培を行いたい」といった意見がありました。

普及センターでは、水稻栽培の課題解決に向けて、引き続き新技術の導入を支援していきます。



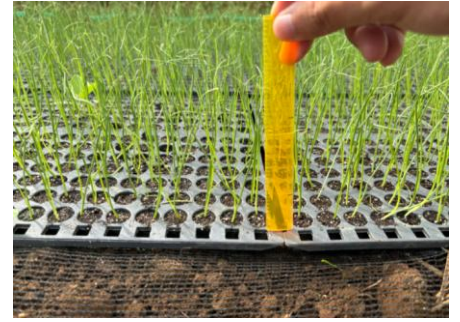
展示ほで生育を確認する生産者

2 【施策1】 たまねぎ苗床巡回

15日からたまねぎのセル育苗が開始され、週2～3回のペースで苗床の巡回支援を実施しました。セル苗は、移植の省力化が期待できる全自動移植機に適合した苗であり、安定した苗づくりに課題がありました。

今回、苗の生育状況の確認、かん水量の測定および培土の湿り具合等の確認結果をもとに、散水チューブやスプリンクラーの圧力調整、かん水量・頻度について農業者に助言し、技術改善を図りました。

セル育苗は機械化体系の確立に必須の技術であるため、今後も重点的に支援を実施していきます。



たまねぎ苗

3 【施策2】 新規就農者に対する個別支援

新規就農者4名に対し、以下の個別支援を実施しました。

- ・対象者：令和6年就農者（施設野菜及び複合経営）2名、令和7年就農者（施設野菜）1名及び令和8年就農者（施設野菜）1名
- ・支援内容：ほ場又は普及センターにて、作物の栽培状況の確認や、定植に向けた準備（育苗やハウス移設等）の状況確認を実施

今回の支援により各対象者の状況整理が進み、営農への意欲が確認できました。今後も関係機関と連携し、早期の経営安定と定着に向けた支援を継続します。

4 【施策2】 経営改善コンサルタントの実施

普及センターは延岡地域経営体支援センターの一員としてJAみやざき延岡地区本部と連携して、農業者の経営改善に向けたコンサルタントに取り組んでおり、9日に支援対象者1名に実施しました。

所得向上のための経営上の問題や課題、改善に向けた意欲等を聞き取り、改善方法について助言しました。併せて、栽培技術面からの課題をより明確にするために、10月に対象者のほ場や生産状況等を確認して、効果的な改善案を提案していく予定となりました。

この面談を通して、支援対象者は自らの経営改善に向けて取り組むことの重要性を再認識していました。今後も関係機関と連携し、農業者の経営安定化に向けた支援を継続します。

5 【施策2】 労務管理研修～マッチングアプリ活用実証に向けた説明会～

今年度、人材ベストミックス体制構築支援事業を活用してJA延岡青壮年部が多様な人材の活用モデルの実証に取り組めます。

その取組を円滑に進めるため、16日、延岡市農業労働力確保対策協議会主催により、導入予定の生産者5名（きゅうり、稲作経営）へ説明会が実施されました。

説明会では、今回活用する人材マッチングアプリの一つ「1日農業バイトアプリ『デイワーク』」の紹介、実証事業の進め方、アプリの登録方法、労災保険等の加入手続き方法が行われました。

今回の確立実証事業の導入により、これまでの農作業体験会や農福連携の見学会による人材確保に加えて、多様な人材の円滑な確保対策が強化され、各経営体の経営の安定向上並びに地域への当システムの普及啓発が期待されます。



説明会

2 地域課題一覧に関する普及活動

1 令和8年度宮崎県茶共進会・求評会の開催

9月2日、総合農業試験場茶業支場において共進会が開催され、当管内からは普通蒸し煎茶13点、蒸し製玉緑茶2点、釜炒り茶11点の計26点が出品されました。審査の結果、釜炒り茶部門において、延岡市北方の甲斐正太郎氏が農林水産大臣賞を、同じく甲斐義之氏が日本茶業中央会会長賞を受賞するという素晴らしい成果を収めました。

9月29日にはJAみやざき茶流通センターにて求評会が開催されました。ここでは、共進会に出品された茶を生産者自らが確認し、今後の生産技術の向上に生かす取り組みが行われました。参加した生産者からは、他地域の生産者に日頃の製茶に関する質問ができ、勉強になったとの声が聞かれました。

普及センターでは、茶産地維持に向けた取組として、栽培や製茶支援を行っていますが、共進会や求評会は客観的に品質を確認できることから、今回の結果を活用しながら、引き続き生産者の取り組みをしっかりと支援していきます。



共進会の審査